

企画競争説明書

業務名称：2024年度青年研修「地元資源を活用した産業振興
(地域産業振興) C」に係る研修委託契約（企画競争）

調達管理番号：24c00245000000

- 第1 競争の手順
- 第2 業務仕様書
- 第3 プロポーザル作成要領
- 第4 見積書作成及び支払について
- 第5 契約書（案）
- 別添 様式集

2024年7月12日
独立行政法人 国際協力機構
関西センター

第1 競争の手順

本件に係る公示に基づく企画競争については、この企画競争説明書によるものとします。

1. 公示

公示日 2024年7月12日

調達管理番号 24c00245000000

2. 契約担当役

独立行政法人国際協力機構 関西センター 契約担当役 所長

3. 競争に付する事項

(1) 業務名称：2024年度青年研修「地元資源を活用した産業振興（地域産業振興）C」に係る研修委託契約（企画競争）

(2) 業務内容：「第2 業務仕様書」のとおり

(3) 契約書（案）：「第5 契約書（案）」のとおり

(4) 契約履行期間（予定）：

2024年9月下旬から2025年1月末まで（2024年度）

（この期間には、事前準備・事後整理期間を含みます）

本研修委託業務は、2024年度に実施する予定の研修コース対象とします。

消費税の増税や研修内容の変更等が必要となった場合は、発注者・受注者で契約条件の変更について協議します。

4. 担当部署等

(1) 書類等の提出先

手続き窓口、各種照会等及び書類等の提出先は以下のとおりです。

なお、本項以降も必要な場合にはこちらが連絡先となります。

【住所】〒651-0073

兵庫県神戸市中央区脇浜町海岸通1-5-2

独立行政法人国際協力機構 関西センター開発大学院連携課

【電話番号】078-261-0388

【メールアドレス】ksictp2@jica.go.jp

(2) 書類授受・提出方法

1) メールでの送信：上記(1)メールアドレス宛

2) メール送信の留意点

① メールタイトルは「「地元資源を活用した産業振興（地域産業振興）C」研修委

託業務企画競争」としてください。

- ② 当機構からのメールを受信できるよう、当機構のドメイン (jica.go.jp) またはメールアドレスを受信できるように設定してください。
- ③ ファイルサイズを受信制限があるため、送付メールの容量は 20MB 以下とし、超える場合は、送付前に事前にご連絡ください (ZIP ファイル等圧縮ファイルは受信できません。)。大容量データ受け渡しサイト (ギガポッド) の URL と、同 URL にログインするための ID とパスワードをメールで送付します。同 URL にアクセスし、ID とパスワードを入力してログインの上、提出する書類を同サイトに アップロードした後、必ずメールにて担当者へ提出連絡を行ってください。
- ④ 上記大容量データ受け渡しサイト (ギガポッド) が利用できない場合は、担当者にご相談下さい。

5. 競争参加資格

(1) 消極的資格制限

以下のいずれかに該当する者は、当機構の契約事務取扱細則 (平成 15 年細則 (調) 第 8 号) 第 4 条に基づき、競争参加資格を認めません。また、共同企業体の構成員となること、契約の下請負人 (業務従事者を提供することを含む。以下同じ。) となることを認めません。

- 1) 破産手続き開始の決定を受けて復権を得ない者
具体的には、会社更生法 (平成 14 年法律第 154 号) 又は民事再生法 (平成 11 年法律第 225 号) の適用の申立てを行い、更生計画または再生計画が発効していない法人をいいます。
- 2) 独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程 (平成 24 年規程 (総) 第 25 号) 第 2 条第 1 項の各号に掲げる者
具体的には、反社会的勢力、暴力団、暴力団員、暴力団員等、暴力団員準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロ、特殊知能暴力集団等を指します。
- 3) 独立行政法人国際協力機構が行う契約における不正行為等に対する措置規程 (平成 20 年規程 (調) 第 42 号) に基づく契約競争参加資格停止措置を受けている者
具体的には、以下のとおり取扱います。
 - ① 競争開始日 (プロポーザル等の提出締切日。ただし、競争参加資格確認を事前に行う場合は資格確認申請書の提出締切日。以下同じ。) に措置期間中である場合、競争への参加を認めない。
 - ② 競争開始日の翌日以降から、契約相手確定日 (契約交渉権者決定日) までに措置が開始される場合、競争から排除する。

③ 契約相手確定日（契約交渉権者決定日）の翌日以降に措置が開始される場合、競争から排除しない。

④ 競争開始日以前に措置が終了している場合、競争への参加を認める。

(2) 積極的資格要件

当機構の契約事務取扱細則第5条に基づき、以下の資格要件を追加して定めま
す。

1) 全省庁統一資格

令和4・5・6年度全省庁統一資格を有すること。又は、当機構の審査により同等の資格を有すると認められたもの。

6. 共同企業体、再委託について

(1) 共同企業体：共同企業体の結成を認めます。ただし、共同企業体を構成する社、又は代表者及び構成員全員が、上記5(1)(2)(3)の競争参加資格を満たす必要があります。共同企業体を結成する場合は、「共同企業体結成届」（様式はありません。）を作成し、プロポーザルに添付してください。結成届への代表者印及び構成員のすべての社の社印は省略可とします。

(2) 補強：補強は認めません。

(3) 再委託：

1) 再委託は原則禁止となりますが、印刷・製本、資料整理、翻訳・通訳、会場借上等の本業務に付随する軽微な業務を再委託することは可能です。

一部業務の再委託を希望する場合はプロポーザルにその再委託予定業務、再委託企業名等を記述してください。

2) 再委託の対象となる業務は、本件業務全体に大きな影響を及ぼさない補助的な業務に限ります。

3) 当機構が、再委託された業務について再委託先と直接契約を締結することや再委託先からの請求の受理あるいは再委託先へ直接の支払いを行うことはありません。

4) なお、契約締結後でも、当機構から承諾を得た場合には再委託が可能です。

7. 競争参加資格の確認

競争参加資格要件のうち、令和6年度全省庁統一資格については、プロポーザル表紙にて提示いただく全省庁統一資格業者コードに基づき確認を行います。その他の競争参加資格要件については、必要に応じ契約交渉に際し再確認します。

競争参加資格要件のうち、全省庁統一資格については、プロポーザルにて提示いただく全省庁統一資格業者コードに基づき確認を行います。

全省庁統一資格を有していない場合は、競争参加資格を確認するため、(4)を提出してください。

- (1) 提出期限：**2024年8月1日（木）12時まで**
- (2) 提出場所：「4.（1）書類等の提出先」参照
- (3) 提出方法：電子メール
- (1) 提出書類：
 - 1) 競争参加資格確認申請書（様式集参照）
 - 2) 組織概要、パンフレット等
 - 3) 登記事項証明書（写）（法務局発行の「履行事項全部証明書」、発行日から3ヶ月以内のもの）
 - 4) 財務諸表（写）（申請日直前1年以内に確定した決算書類）
 - 5) 納税証明書（写）（その3の3、発行日から3ヶ月以内のもの）
- (5) 確認結果の通知：

競争参加資格の確認の結果は電子メールで通知します。
2024年8月8日（木）までに結果が通知されない場合は、「4.（1）書類等の提出先」にご照会ください。
- (6) その他：
 - 1) 申請書の提出にかかる費用は、申請者の負担とします。
 - 2) 提出された申請書を、競争参加資格の確認以外に申請者に無断で使用することはありません。
 - 3) いったん提出された申請書等は返却しません。また、差し替え、再提出は認めません。
 - 4) 競争参加資格有の確認通知を受けた後に、プロポーザルを提出されない場合には、辞退届の提出をお願いします。詳細は、16（2）をご参照願います。

8. 企画競争説明書に対する質問

(1) 質問方法

業務仕様書の内容等、この企画競争説明書に対する質問がある場合は、次に従い書面により提出してください。

- 1) 提出期限：**2024年7月22日（月）12時まで**
- 2) 提出先：「4.（1）書類等の提出先」参照
- 3) 提出方法：電子メール

メールタイトルは以下のとおりとしてください。

【企画競争説明書への質問】（調達件名）

当機構より電子メールを受信した旨の返信メールをお送りします。

- 4) 質問書様式：「質問書」（様式集参照）に記入

(2) 質問への回答

上記（1）の質問書への回答は、次のとおり閲覧に供します。

- ・2024年7月30日（火）までに、以下のサイト上に掲示します。
- ・なお、質問がなかった場合には掲載を省略します。

国際協力機構ホームページ (<https://www.jica.go.jp>)

→「調達情報」(<https://www.jica.go.jp/announce/index.html>)

→「公告・公示情報」

→「各国内拠点における公告・公示情報」の「研修委託契約」から該当する調達項目を選んでください。

(3) 留意事項

1) 公正性・公平性等確保の観点から、電話等口頭でのご質問は原則としてお断りしておりますのでご了承ください。

2) 回答書によって、仕様・数量等が変更されることがありますので、本件競争参加希望者は、質問提出の有無にかかわらず回答を必ずご確認ください。見積金額は、回答による変更を反映したものとして取り扱います。

9. プロポーザル・見積書の提出等

(1) 提出期限：**2024年8月19日(月)12時まで**

(2) 提出場所：「4. (1) 書類等の提出先」参照

(3) 提出方法：電子メール(※)

(※) 当機構からのメールを受信できるよう、当機構のドメイン

(jica.go.jp) またはメールアドレスを受信できるように設定してください。

メールを送付後、2024年8月20日(火)12時までに受信完了の連絡が無い場合は上記電話番号までお問合せください。

(4) 提出書類：

1) プロポーザル(提出部数：正1部)

「第3 プロポーザル作成要領」を参照してください。

2) 見積書(概算)(提出部数：正1部)

① 本時点での見積書は任意様式とします。積算にあたっては、「第4 見積書作成及び支払について」を参照願います。

② 見積書作成にあたっては、最新版(2024年3月版)の「研修委託契約ガイドライン」(https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/guideline.html)を参照願います。

③ メールで1部を提出いただき、写の提出は必要ありません。また、セキュリティの強化のため。提出データにパスワードを設定のうえメール送信し、別メールでパスワードをお知らせください。

(5) その他

1) 一旦提出されたプロポーザル等の応募書類は、差し替え、変更又は取り消しできません。

2) プロポーザル及び見積書等の作成、提出に係る費用については報酬を支払いません。

3) 提出書類は、本件業務の契約交渉順位を決定し、また、契約交渉を行う目的

以外に使用しません。

- 4) 採用の有無を問わず、プロポーザル等については返却しません。なお、受託者となった者以外のプロポーザル等にて提案された計画、手法は無断で使用しません。
- 5) プロポーザル等に含まれる個人情報等については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 59 号）」に従い、適切に管理し取り扱います。

10. プロポーザルの評価及び契約交渉順位の決定方法

(1) 評価項目・評価配点・評価基準

「第3 プロポーザル作成要領」参照

(2) 評価方法

「第3 プロポーザル作成要領」参照

(3) 契約交渉順位の決定方法

プロポーザルの評価点が最も高い者を交渉順位1位とします。なお、評価点と同じ者が2者以上あるときは、抽選により交渉順位を決定します。

11. プロポーザルの評価結果の通知

- (1) プロポーザルは、当機構において審査し、プロポーザルを提出した全者に対して、その結果を電子メールにて通知します。2024年8月27日（火）までに結果が通知されない場合は、「4. (1) 書類等の提出先」にお問い合わせください。
- (2) 選定結果は、当機構ウェブサイト上で公表します。
- (3) プロポーザル評価の結果、契約交渉の相手先として選定されなかった者は、その理由について書面（様式は任意）により説明を求めることができます。詳細は、「16. その他 (1)」をご参照ください。

12. 契約交渉

- (1) プロポーザル評価結果に基づき契約交渉順位1位の者から契約交渉を行います。
- (2) 契約交渉に当たっては、当方が提示している業務仕様書及び提案いただいた内容に基づき、最終的な委託業務内容を協議します。
- (3) また、当機構として契約金額（単価）の妥当性を確認するため、見積書金額の詳細内訳や具体的な根拠資料を提出いただき、各業務に係る経費を精査します。
- (4) 契約交渉において、見積書及び最終的な委託業務内容に基づき、契約金額の交渉を行います。契約金額（又は最終的な委託業務内容）について合意できない場合、契約交渉を終了します。

13. 最終見積書の提出、契約書作成及び締結

- (1) 「12. 契約交渉」により合意に至った者は、速やかに合意された金額の最終見

積書（JICA が指定する見積書様式）を提出するものとします。

- (2) 「第5 契約書（案）」に基づき、速やかに契約書を作成し、締結します。契約保証金は免除します。
- (3) 契約条件、条文については、「第5 契約書（案）」を参照してください。

14. 競争・契約情報の公表

本企画競争に基づき締結される契約については、機構ウェブサイト上に契約関連情報（契約の相手方、契約金額等）を公表しています。また、一定の関係を有する法人との契約や関連公益法人等については、以下の通り追加情報を公表します。詳細はウェブサイト「公共調達適正化に係る契約情報の公表について」を参照願います。

（URL：<https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/corporate.html>）

プロポーザルの提出及び契約の締結をもって、本件公表に同意されたものとみなさせていただきます。

- (1) 一定の関係を有する法人との契約に関する追加情報の公表

- 1) 公表の対象となる契約相手方取引先

次のいずれにも該当する契約相手方を対象とします。

- ① 当該契約の締結日において、当機構の役員経験者が再就職していること、又は当機構の課長相当職以上経験者が役員等として再就職していること
- ② 当機構との間の取引高が、総売上又は事業収入の3分の1以上を占めていること

- 3) 公表する情報

- ① 対象となる再就職者の氏名、職名及び当機構における最終職名
- ② 直近3か年の財務諸表における当機構との間の取引高
- ③ 総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引高の割合
- ④ 一者応札又は応募である場合はその旨

- 3) 情報の提供方法

契約締結日から1ヶ月以内に、所定の様式で必要な情報を提供いただきます。

- (2) 関連公益法人等にかかる情報の公表

契約の相手方が「独立行政法人会計基準」第13章第6節に規定する関連公益法人等に該当する場合には、同基準第13章第7節に規定される情報が、機構の財務諸表の付属明細書に掲載され一般に公表されます。

15. 誓約事項

プロポーザルの提出をもって、競争参加者は、以下の事項について誓約したものとします。

- (1) 反社会的勢力の排除

以下のいずれにも該当せず、将来においても該当することがないこと。

- 1) 競争参加者の役員等が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力集団等（各用語の意義は、独立行政法人

国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成 24 年規程（総）第 25 号）に規定するところにより、これらに準ずる者又はその構成員を含む。以下、「反社会的勢力」という。）である。

- 2) 役員等が暴力団でなくなった日から 5 年を経過しないものである。
- 3) 反社会的勢力が競争参加者の経営に実質的に関与している。
- 4) 競争参加者又は競争参加者の役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。
- 5) 競争参加者又は競争参加者の役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与している。
- 6) 競争参加者又は競争参加者の役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。
- 7) 競争参加者又は競争参加者の役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。
- 8) その他、競争参加者が東京都暴力団排除条例（平成 23 年東京都条例第 54 号）又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている。

(2) 個人情報及び特定個人情報等の保護

法人として「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」及び「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）（平成 26 年 12 月 11 日特定個人情報保護委員会）」に基づき、個人情報及び特定個人情報等（※1）を適切に管理できる体制を以下のとおり整えていること。

（中小規模事業者（※2）については、「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）」別添「特定個人情報に関する安全管理措置」に規定する特例的な対応方法に従った配慮がなされていること。）

- 1) 個人情報及び特定個人情報等の適正な取扱いや安全管理措置に関する基本方針や規程類を整備している。
- 2) 個人情報及び特定個人情報等の保護に関する管理責任者や個人番号関係事務取扱担当者等、個人情報及び特定個人情報等の保護のための組織体制を整備している。
- 3) 個人情報及び特定個人情報等の漏えい、滅失、き損の防止その他の個人情報及び特定個人情報等の適切な管理のために必要な安全管理措置を実施している。
- 4) 個人情報又は特定個人情報等の漏えい等の事案の発生又は兆候を把握した場合に、適切かつ迅速に対応するための体制を整備している。

(※1) 特定個人情報等とは個人番号（マイナンバー）及び個人番号をその内容に含む個人情報をいう。

(※2) 「中小規模事業者」とは、事業者のうち従業員の数が100人以下の事業者であって、次に掲げる事業者を除く事業者をいう。

- ・ 個人番号利用事務実施者
- ・ 委託に基づいて個人番号関係事務又は個人番号利用事務を業務として行う事業者
- ・ 金融分野（金融庁作成の「金融分野における個人情報保護に関するガイドライン」第1条第1項に定義される金融分野）の事業者
- ・ 個人情報取扱事業者

16. その他

- (1) 競争参加資格がないと認められた者、プロポーザルの評価の結果契約交渉の相手先として選定されなかった者については、その理由についてそれぞれの通知から7営業日以内に説明を求めることができますので、ご要望があれば「4. (1) 書類等の提出先」までご連絡願います。日程を調整のうえ、面談（若しくはオンライン）で説明します。

(2) 辞退理由書

当機構では、競争参加資格有の確認通知を受けた後にプロポーザルを提出されなかった者に対し、辞退理由書の提出をお願いしています。

辞退理由書は、当機構が公的機関として競争性の向上や業務の質の改善につなげていくために、内部資料として活用させていただくものです。つきましては、ご多忙とは存じますが、ご協力の程お願い申し上げます。

なお、内容につきまして、個別に照会させていただくこともありますので、予めご了承ください。また、本辞退理由書にお答えいただくことによる不利益等は一切ありません。本辞退理由書は今後の契約の改善に役立てることを目的としているもので、その目的以外には使用いたしませんので、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。辞退理由書の様式は、様式集のとおりです。

第2 業務仕様書

この業務仕様書は、独立行政法人国際協力機構（以下、「委託者」という。）が実施する「(調達件名)」に関する業務の内容を示すものです。本件受託者は、この業務仕様書に基づき、本件業務に係るプロポーザル等を機構に提出するものとします。なお、本業務仕様書の第2-1「業務の内容・目的に関する事項」、第2-2「研修委託上の条件」に関しては、本業務仕様書の内容に基づき、応募者がその一部を補足又は改善したプロポーザルを提出することを妨げるものではありません。

第2-1 業務の内容・目的に関する事項

1. 研修コース名

青年研修「地元資源を活用した産業振興（地域産業振興）C」

2. 2024年度研修期間（予定）

全体受入期間：2024年10月21日（月）～2024年11月2日（土）

技術研修期間：2024年10月22日（火）～2024年11月1日（金）

3. 研修の背景・目的

（1）本研修は、参加国の将来の国づくりを担う青年層を対象に、各国で必要とされている産業振興、特に地域産業振興に焦点をあて、日本の制度や経験、そして現在の取組みを理解する基礎的な研修を行う青年研修事業として実施する。

（2）日本では少子高齢化の進展や東京圏への人口集中に伴う地方部の人口減少等の問題に対し、「地方創生」の名のもと地方の地域活性化に国を挙げて取り組んでいる。2014年に政府が全国各地の自治体で地域活性化を促進するために「まち・ひと・しごと創生法」の制定と、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の策定を行った。これら政府の方針を受け、全国各地の自治体ではさまざまな地域活性化に取り組んでいる。兵庫県では、2025年「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催される大阪・関西万博に関連して、兵庫県内の「活動の現場そのもの（フィールド）」を地域の人々が主体となって発信する「ひょうごフィールドパビリオン」を県内で展開している。「ひょうごフィールドパビリオン」の取組みは、兵庫県の各地域の地元の産品を活かして地域を豊かにし、地域の持続可能な発展に結びつくと期待されている。

（3）本研修では、主に、「ひょうごフィールドパビリオン」の取組みを題材とし、兵庫県の地元資源を活用した産業振興の学びを通じて、参加者が自国の地元資源の再発見を行い、自国の地域産業振興の意識を向上させることを目指すものである。

4. 案件目標（アウトカム）

地域資源を活用した商品及び地域のブランディングやマーケティングに係る実践的知識を習得・整理し、各国・各地域の実情に応じて講じ得る改善案を作成する。

5. 単元目標（アウトプット）

（１）研修員の自国における地域資源を活用した商品・サービスの現状と課題を理解する。

（２）日本の行政（中央及び地方）や産業振興機関による地域ブランド化等、地域の特長を生かした産業振興の経験や手法を理解し、研修員の自国地域と比較分析する。

（３）地域産業振興のための商品及び地域ブランディング・マーケティングに必要な知識・手法を理解する。

（４）研修で得た知識・経験から、地域産品を通じた自国の地域の産業振興策及び商品化の支援・指導手法について強化・改善すべき点を整理する。

6. 研修構成・内容

	単元目標	想定される研修項目
1	研修員の自国における地域資源を活用した商品・サービスの現状と課題を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自国の地域資源を活用した商品・サービスの現状分析及び課題の整理（カントリーレポートを想定） ・地域資源を活用した商品・サービスの成功事例、失敗事例及びそれら要因に関する講義 ・JICA 関西秋祭り（10/26（土））で地元産品を展示・説明し、来場者から意見を聞く
2	日本の行政（中央及び地方）や産業振興機関による地域ブランド化等、地域の特長を生かした産業振興の経験や手法を理解し、研修員の自国地域と比較分析する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ブランド化等、地域の特長を生かした産業振興の経験や手法に関する講義及び視察 ・行政/産業振興機関と産業振興の経験や手法について協議 【リソース候補：行政機関（中央、地方自治体（府県、市町村））】
3	地域産業振興のための商品及び地域ブランディング・マーケティングに必要な知識・手法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した商品・サービスの成功事例当事者による商品及び地域ブランディング・マーケティングに必要な知識・手法に関する講義及び視察 ・地域資源を活用したひょうごフィールドパビリオンの視察 【想定される商品・サービス：神戸牛、日本

		酒、農作物、その他兵庫県内の特産品（鯉のぼり、播州織等）】
4	研修で得た知識・経験から、地域産品を通じた自国の地域の産業振興策及び商品化の支援・指導手法について強化・改善すべき点を整理する。	・研修内容を踏まえて、商品化の支援・指導手法に関する強化・改善案の発表

7. **研修使用言語**：英語（※西語圏からの研修員の英語力は、応募され次第順次確認の上、研修受託者に共有する。）

8. 研修員

- (1) 定員：11名（応募状況や選考結果により数名の増減可能性あり）
- (2) 研修割当対象国（予定人数）：10ヶ国
バヌアツ(1), キリバス(1), ソロモン(1), ガーナ(1), スーダン(1), ボツワナ(1), モーリシャス(1), アルゼンチン(2), コスタリカ(1), ペルー(1)
- (3) 研修対象組織：中央又は地方行政機関の職員、産業振興機関職員等の地域ブランド形成・活用・管理支援業務に関わる組織
- (4) 研修対象者：地域産品の開発や販路開拓に係る中小企業（小規模事業者、生産者含む）への支援実施、施策立案、地域ブランド形成・活用・管理の担当・支援業務に携わっているもの。

9. 研修方法

- (1) 講義：テキスト・レジュメ等を準備し、必要に応じて視聴覚教材を利用して、研修員の理解を高めるべく実施する。
- (2) 見学・研修旅行：講義で得た知見をもとに関係者との意見交換を通じて、事業実施において実践可能な知識・技術を研修員が習得できるように努める。研究機関だけでなく民間企業等への訪問も含め、研修員がより適応範囲の広い知識・技術を習得することを狙いとして実施する。
- (3) レポート作成・発表：各研修員の問題意識について研修員・日本側関係者間で相互理解を深めるよう配慮し、あわせて帰国後の問題解決能力を高めることを狙いとして各レポートの作成・発表をさせる。

※本研修コース実施にあたって英語－日本語の逐次通訳等を行う研修監理員の配置は予定しておりません。

10. 研修プログラム作成上の留意点

技術研修以外に当機構が実施する以下の内容も日程案に含める。

- (1) ブリーフィング（滞在諸手続き）：0.5 日間（来日翌営業日の午前）
受入時事務手続き、滞在諸手当の支給手続き等についての説明を、来日翌日に実施する。
- (2) プログラムオリエンテーション（研修概要説明）：1 時間（来日翌営業日の午後）
当該研修の関係者紹介、全体日程や案件目標・単元目標を含むカリキュラム及び構成に係る説明、その他研修実施に必要な事項について研修員に説明する。受託者は、機構と共にプログラムオリエンテーションを実施する。
- (3) 評価会、閉講式：2 時間（離日前日）

1 1. 研修の評価

研修受託機関は研修実施状況及び以下の実施ツールを総合的に分析し、評価結果につき業務完了報告書に取りまとめる。

- (1) 質問票(Questionnaire)
研修員が回答したものを研修監理員が集計する。技術研修最終日に実施する評価会では質問票の集計結果を使用し、本研修の評価を関係者間（研修員及び研修受託機関、JICA）で行う。
- (2) 成果物評価
研修員による最終総括及び評価会での報告・発言内容等の確認を行い、目標達成度を評価する。

第 2 - 2 研修委託上の条件

1. 研修施設

研修に係る施設は、JICA 関西の施設や設備、機材を使用することができる。この場合、研修受託機関は JICA 関西の指示に従って使用することとする。

2. 契約履行期間（予定）

2024 年 9 月下旬から 2025 年 1 月末まで（2024 年度）

（この期間には、事前準備・事後整理期間を含む）

3. 委託契約業務の内容

受託者は研修の実施及びその運営に必要な以下の業務を、委託者と密接な連絡をとりながら実施するものとする。

1. 研修日程調整及び研修詳細計画書の様式を用いた日程案の作成
2. 講師・見学先・実習先の選定
3. 講義依頼、講師派遣等依頼及び教材作成依頼文書の作成・発信
4. 教材の複製や翻訳についての適法利用の確認
5. 講師・見学先への連絡・確認
6. JICA、省庁、他関係先等との調整・確認
7. 講義室・会場等の手配
8. 使用資機材の手配（講義当日の諸準備を含む）
9. テキストの選定と準備（翻訳・印刷業務を含む）
10. 講師への参考資料（テキスト等）の送付
11. 講師からの原稿等の取り付け、配布等の調整、教材利用許諾範囲の確認及び JICA への報告
12. 講師・見学先への手配結果の報告
13. 通訳同行者の手配（※英語通訳者に加え西語通訳者を手配することは妨げない）
14. 通訳同行者との連絡調整
15. プログラムオリエンテーションの実施
16. 研修員の技術レベルの把握
17. 研修員及び同行者の国内移動手配
18. 研修員からの技術的質問への回答
19. 評価会、技術討論会（各種レポート発表会含む）の準備、出席
20. 通訳同行者からの報告聴取
21. 講義・見学謝金支払い、明細書送付を含む諸経費支払い手続き
22. 業務完了報告書作成、経費精算報告書作成

4. 報告書の提出

本業務の報告書として、業務完了報告書、業務提出物、及び経費精算報告書を技術研修期間終了後速やか（契約履行期限 10 営業日前まで／若しくは業務実施要領で指定する期日まで）に提出する。業務完了報告書の記載項目は以下のとおりとするが、研修受託機関がその一部を補足又は改善することを妨げるものではない。

(1) 業務完了報告書

【記載事項】

1) 案件の概要

- ① 案件名（和文／英文）
- ② 研修期間
- ③ 研修員人数、国名

2) 研修内容

- ① 研修全体概念図
- ② 単元目標ごとのカリキュラム構成

3) 案件目標（アウトカム）と単元目標（アウトプット）の達成度

- ① 案件目標・指標・達成度・貢献要因／阻害要因
- ② 単元目標・指標・達成度・貢献要因／阻害要因
- ③ 達成度測定結果（上記達成度の判断根拠及びデータ）

4) 研修案件に対する所見

（研修の運営や質の向上の観点から振り返りについて記述。特に工夫した内容や注力した取り組み及びそれらの結果、（継続契約の場合は）過年度からの変更点や新規導入した講義・視察等）

- ① 研修デザイン（研修期間・プログラム構成等）
- ② 研修内容（コンテンツ）（研修プログラム内容・研修教材）
- ③ 研修効果を高める工夫
- ④ 研修対象の選定（割当国、対象機関、研修員）
- ⑤ 研修運営体制
- ⑥ 事前活動・事後活動（ある案件のみ）
- ⑦ その他特記事項

5) 次年度へ向けた改善点及び提案

- ① 評価会における指摘事項
- ② 次年度以降の改善計画（案）
- ③ 次年度 GI に反映させるべき点

(2) 業務提出物

- ① 業務提出物一覧
- ② 研修日程表
- ③ 著作物の利用条件一覧

- ④ 研修教材一式（上記（２）③著作物の利用条件一覧に記載の動画等を含む教材（完成品）全て）
 - ⑤ 情報廃棄報告書
- （３） 業務完了報告書添付資料
- ① 添付資料一覧
 - ② 質問票のまとめ（案件目標（アウトカム）と単元目標（アウトプット）の達成度として、質問票による回答結果を活用している場合のみ）
 - ③ 研修員アンケート結果（JICAによる質問票以外で、受託者にて独自に実施したものがあれば）、研修員個々の評価、研修員レポート等
- （４） 経費精算報告書
- 以下５（１）に掲載されている経費様式をご使用ください。

5. 参考

- （１） 研修委託契約ガイドライン、契約書雛形、様式
https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/guideline.html
- （２） 研修事業における著作権ガイドライン
<https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/copyright.html>
- （３） 研修員等の国内移動手配と「旅行手配書」記入マニュアル
https://www.jica.go.jp/Resource/announce/manual/guideline/consultant/ku57pq00000pwqg3-att/material_01.pdf

第3 プロポーザル作成要領

プロポーザルを作成するにあたっては、「第2 業務仕様書」及び以下についてプロポーザルに十分に反映いただくことが必要となりますので、その内容をよく確認してください。

1. プロポーザルに記載すべき事項及び評価項目

記載項目・評価項目	分量	様式	配点
■応募機関の経験・能力			
(1) 類似業務の経験 ・本研修実施に活用可能な、地元資源を活用した産業振興に関連する研修又は同分野の技術協力業務に関する知見及び実務経験。本研修実施に当たっての組織体制図、担当者名、その他特筆すべき知見・経験・関係機関とのネットワーク等を記載する。 ・国内外における当該分野の研修や指導を実施した過去5年間の実績を具体的に記載する。また、それらの業務経験が当該案件の実施にあたり、どのように有用であるかについても説明する。 ＊当機構発注業務に限らず、他団体が発注した類似業務も含める。	2枚程度	不問	5点
(2) 業務実施上の支援体制等 本研修の受託及び実施にあたり、組織の支援体制を具体的に記載する。			5点
■業務の実施方針			
(1) 技術面（カリキュラム編成方針・コース運営方針） 業務の内容を踏まえ、研修目的及び到達目標（単元目標）に沿ったカリキュラムの編成方針（講義・実習のテーマの設定及び組み方、講師選定方針、研修旅行の活用方針等）を具体的に記載する。	4枚程度	不問	20点
(2) 運営面（要員計画・業務分担） 提示された業務の基本方針及び方法に見合った実施（管理）体制や要員計画等を具体的に記載する。通訳の語学レベルも記載。			10点
(3) 研修日程案 上記(1)及び(2)を踏まえ、想定される具体的な日程案について記載する。	2枚以内	指定	25点
■業務総括者の経験・能力			

<p>(1) 業務総括者の専門的能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務総括者の日本及び途上国等での地元資源を活用した産業振興に関連する専門的知見・能力と研修運営・指導能力について記載する。 ・なお、プロポーザル記載対象の業務総括者は、業務従事者の中で最も深く研修に関与し、研修同行、コース運営（研修関係者に対する支援・調整及び研修の進行）及び契約業務の中心となる従事者で、当該分野の業務経験があり、研修の目的や研修員の知識・技術レベルに基づいて適切にコース運営できる業務従事者を想定している。 	2 枚 程 度	不 問	20 点
<p>(2) 類似業務の経験</p> <p>当該分野における過去に従事した案件・業務ごとに、業務総括者自らが担当した業務・役割を明確に記載する（過去5年以内のもの）。また、それらの業務経験が本研修の実施にあたり、どのように有用であるかについても説明する。</p> <p>* 当機構発注業務に限らず、他団体が実施する類似業務も含める。</p>			
<p>(3) 語学力（英語）</p> <p>語学の資格名、グレード名（又は取得スコア）及び取得年月を記載すると共に、その<u>認定書の写しを添付</u>のこと。認定書の写しがない場合には当該語学資格を語学評価の対象外とする。</p> <p>* 提出期限日時点で取得後 10 年以上経過した資格は語学評価の対象外とする。</p>	-	-	5 点

2. プロポーザルの体裁

- (1) プロポーザルの表紙には、業務名、提出年月日、全省庁統一資格業者コード（全省庁統一資格有の場合）、応募機関の名称を記載してください。
- (2) プロポーザルは、A4 版（縦）、原則として 1 行の文字数を 45 字及び 1 ページの行数を 35 行程度とします。
- (3) 提出されたプロポーザルが所定の文字数・枚数を大きく超える場合、所定の様式によらない場合は減点となる場合があります。

3. プロポーザルの無効

次の各号のいずれかに該当するプロポーザルは無効とします。

- (1) 提出期限後に提出されたとき。
- (2) 記名がないとき。
- (3) 同一提案者から内容が異なる 2 通以上のプロポーザルが提出されたとき。
- (4) 虚偽の内容が記載されているとき（虚偽の記載をしたプロポーザルの提出者に対して契約競争参加資格停止等の措置を行うことがあります）。
- (5) 前号に掲げるほか、本説明書に違反したとき。

第4 見積書作成及び支払について

・本基準及び単価は、以下 URL の「研修委託契約ガイドライン」一式に基づき設定されており、本件業務では同手引きに基づき実施するものとします。

https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/guideline.html

・移動手配等の業務従事人日を積算ください。

（注1）講師謝金、原稿謝金等については、見積書提出時に講師氏名、所属先等経費積算に必要な事項が決まっていない場合は「未定」とし格付け等から類推した概算で積み上げることができます。また、交通費についても同様に概算で積み上げをさせていただいて構いません。

（注2）見積総額を上回る支払い、見積時に計上されていない他費目への流用はできませんのでご注意ください。

（注3）開閉講式におけるレセプションは原則として JICA 国内機関が必要と認める場合のみ、JICA 主催で行う（支払いも JICA が行う）こととしますので、会議費の計上は行わないようにしてください。

第5 契約書（案）

国際協力機構ホームページ (<https://www.jica.go.jp>)

→「研修委託契約ガイドライン、契約書雛形、様式」

(https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/guideline.html)

からご確認ください。

別添 様式集

1. 競争参加資格確認申請書
2. 質問書
3. プロポーザル表紙
4. 研修実施経費見積書表紙
5. 日程表